

令和7年度 学びの充実あと押し事業
 探究的な学習を支えるICTを活用した授業づくり

実践内容



【まずはここから！「探究的な学び」はじめの一步】

8月、中信教育事務所 小沢指導主事をお招きし、生徒自らが問いを生み出す授業デザインについてお話していただくとともに、各教科のどの単元で「探究のサイクル」を回していくか検討した。

先生たちも探究の面白さを実感しようと、夏休みには「大人探究」に挑戦！自分の好きなテーマを深掘りし、成果をCanvaでまとめることで、ICTスキルの向上にも取り組んだ。

【ICT活用で生徒の学びの景色を塗りかえる】

5月2日、東原 義訓 先生（信州大学名誉教授）から本校のICT活用の現状を参観していただくとともに、ICTを活用して、他者との対話や協働を通じて新たな価値を生み出すこと、対話の質を意識した授業設計の重要性についてご指導いただいた。

11月12日、日常的なICT活用の成果を発表する場として、公開授業を実施した。公開に至る過程では、東原先生によるオンライン授業づくりを2回行い、ICTを活用した生徒の思考を広げ深める学びを具現化する手だてについて検討を重ねた。当日は、これらの研修の成果を反映し、以下のような授業を公開した。



| 教科 | 授業内容 |
|----|--------------------------|
| 国語 | 読解内容を他者の視点と合わせて構造化 |
| 社会 | 調べた内容を比較・関連づけながら構造化 |
| 数学 | 面積比の考察をCanvaとスプレッドシートで共有 |
| 音楽 | 音楽の印象や気づきを付箋で可視化し構造化 |

成果と課題

【成果】

- ・教師自身が実際に探究活動を行うことで、その醍醐味を味わうとともに、ICTスキルの向上を図ることができた。
- ・ICTを活用することで、生徒の考えが見える化・構造化することができた。
- ・生徒が、構造化された情報をもとに自分の考えを再構築し、思考を深める姿が見られた。

【課題】

- ・生徒の思考の深化や再構築が、単元を通して連続的に行われる授業デザインの検討が求められる。
- ・ICTを「使うこと」が目的化しないよう、活用の目的や学びのねらいを明確にする視点が必要である。
- ・教科会を中心とした継続的な協議と実践の積み重ねが必要である。